

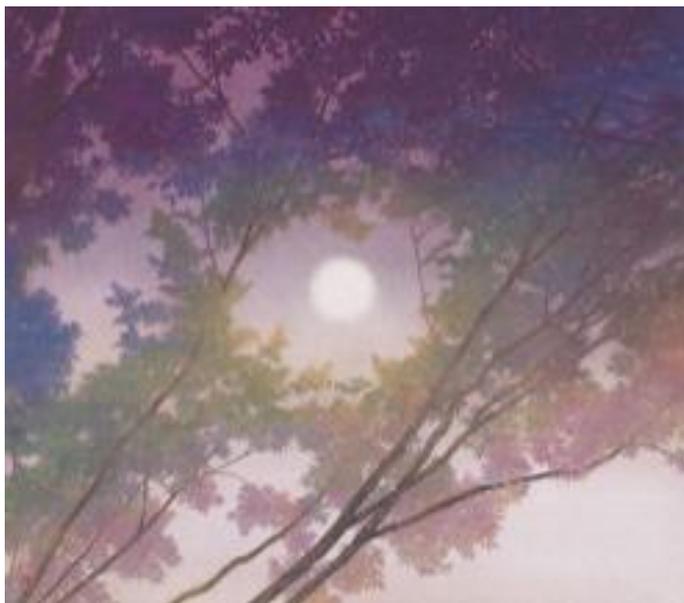
2019年2月

日本橋会場では、代表作から新作まで過去最大規模の約70点が集う、特別な春。

# 手塚雄二展

## 光を聴き、風を視る

- ・会期：2019年3月5日（火）～18日（月）
- ・入場時間：午前10時30分～午後7時30分（午後8時閉場）  
※最終日は午後5時30分まで（午後6時閉場）
- ・会場：日本橋高島屋S.C.本館 8階ホール
- ・主催：日本経済新聞社
- ・入場料：一般1,000円、大学生・高校生800円、中学生以下無料



光や空間を表現する西洋的な技法も取り入れ、日本の伝統美を高純度かつスマートな感性で流麗に描き上げ、新時代の日本画を切り拓く手塚雄二画伯。1953年神奈川県に生まれ、東京藝術大学在学中に院展に初入選。故・平山郁夫画伯に師事し、39歳の若さで日本美術院同人に推挙されるなど、早くから21世紀を担う日本画壇の旗手として囑望され、今や現代日本画壇を牽引するトップレベルの作家として活躍されています。

本展のサブタイトルである「光を聴き、風を視る」とは、聴こえるはずのない自然の語りかけや、見えるはずのない風がもたらす手触りをリ

### 「おぼろつくよ」2012年

アルに呼び覚ます、視覚化するという、手塚画伯の画家としての姿勢をあらわしています。それは日本古来の「暗示の美学」であり、アニミズムとも言えます。日本独自の伝統的な美意識と、現代的で洗練された感覚を融合させたところに画伯の作品は成り立っています。

本展は、近年までの代表作に最新作を加えて展示する、手塚雄二画伯の集大成ともいえる展覧会です。会場では、シュールに憧れた初期作品から、自然に目覚めて作風が大きく展観した時期、そして大胆な構図と繊細で奥深い色彩で描かれた大作群、茶道との出会いから内なる世界へと向かった作品、自分探しの場所を求めた軽井沢シリーズなどの代表作及ぶ新作約70点を展示するとともに、画伯デザインの着物や茶道具なども展観いたします。



「こもれびの坂」1996年 第51回春の院展



「冬風」2018年 第73回春の院展



「気」1984年



「秋麗」2015年 第70回春の院展

＜巡回会場＞巡回会場では約50点を展示いたします。

2019年3月21日(木・祝)～4月1日(月) 横浜高島屋 ギャラリー<8階>

2019年4月10日(水)～22日(月) 大阪高島屋 7階グランドホール

2019年5月8日(水)～20日(月) 京都高島屋 7階グランドホール

＜入場料＞※日本橋会場以外は下記入場料です。

一般800円、大学生・高校生600円、中学生以下無料

以上